

## 学習の進め方

単語は、英語を構成する積み木のブロックのようなものです。積み木の積み方に関する「文法」をいくら知っていても、その元になるブロックが乏しければ、思い通りの英語は話せません。しかし、単語の学習は単語でつまらないものです。

この速習法は、頭に詰め込むだけの苦痛を伴う「暗記もの」である単語学習を、様々な仕掛けと習慣化によって楽しめる作業に変えるだけでなく、音⇒綴り方の法則(フォニクス)に加えて語源や造語法について触れることで、単語学習における「法則性」を学び、高校以降の大量語彙習得の基盤を作ることを目的としています。

まず、習慣化することが大切。1回最低10分、できれば20分、必ず次の6つのステップを毎日続けてください。きちんとやれば、1週間で50語、半年で中学英単語1400語をを制覇できます。

初日:課題の単語リストに沿って、1単語あたり発音と意味を2回ずつ唱える。

(例:ケ<sup>エ</sup>アツトゥ → 猫 → ケ<sup>エ</sup>アツトゥ → 猫)

注:1)「発音」は赤文字の部分で第1アクセント。強く読んでください。

2)「意味」は大きな字(基本の意味)だけ読んでください。

2-3日目:順番に50単語を読んだら、また最初に戻る。慣れてくれば10分で5~6周できるようになります。

4日目:スペルだけを見て「発音⇒意味」が言えたら、パソコンに挑戦。45個勝てたら合格です。

5日目:合格したら、次は「意味⇒発音」と順番を入れ替えて①を唱えます。

6日目:⑤意味だけを見て英単語が言えたら、パソコン(英訳版)に挑戦。45個勝てたら合格です。

7日目:⑥最後はスペリング。意味を見て、音を頼りに英語を書いてください。そして、スペルの音通りではない部分を見つけ、そこだけ覚える。これも45個できれば卒業。こうして、1週間で50語が完了します。

## フリガナの読み方

このテキストでは、英語に慣れない人でもとにかく単語を発音できるよう、カタカナで振り仮名をつけています。日本語の「わ行の」「ゑ」は「え」と似たような音ですが、その音を区別し、別々のカナを充てることで書き分けています。しかし、たとえば「i」と「r」のように、英語では区別されているが、日本語では区別していない音には、それらを書き分けるためのカナがありません。

このような事情から、英語単語のカナ表記には、これまでさまざまな工夫がなされてきましたが、音を忠実に表そうとするとどうしても発音記号に近いものになり、そのカナの発音方法を学習する必要がありました。このテキストでは、英語を学び始めた人に対してこのバードル下げのため、発音の正確さは犠牲にして、カタカナを読んだ音が、なんとか通じる英語になることを目指して振り仮名のつけかたを工夫しています。「th」の音だけはカタカナでは表現できませんが、日本語の「タ」の発音機構にもっとも近いのでタ行のカナを当て、普通のタとは違うことを示すため「タ」と斜体文字に下線を加えて表現しました。その他の点を含めて以下に注意事項を書いておきます。練習しながら慣れて行ってください。

フリガナ	発音記号	単語例	音の特徴と発音のこつ
タ・タ	θ・ð	the	上下の前歯の間に舌先を入れ(「タ」は前歯に舌先が触れる)、中に引き抜きながら声を出す。「タ」と区別するため、斜体下線文字で表記した。
スィ	s	see	ABCの「C」の音。「シ」と書くときshe(「シー」)の音と混同するので、斜体下線文字で表記した。
エア	æ	cat	驚いて「キャー」と言うときの「ア」。「エ」の口の形をして、「ア」と言う。
ラ	l	light	日本語のラ行の子音の音。舌の先を上前歯の歯茎に当てたまま息を出す。
ウラ	r	right	「ウ」の口の形をして「ラ」と発音する。こうすると、舌が口内のどこにも触れないうちに音が出る。
トゥ	t	two	「ト」という「オ」の母音が残るので、軽く「ウ」を添え、口を中立にして、母音を消す。
*	ə	office	本来は「あいまい母音」の「ア」の発音だが、スペルを覚えるのを補助するため、文字に従って読む(「i」は「イ」)。ただし弱く、あいまいに発音。

## 武蔵境 探究館

## 101英単語速習法 Book-1 (001-300)

毎日10分iPadに合わせて、九九を覚えるように復唱するだけ。通じる発音が身に付き、毎週100語の意味とスペルが覚えられる、音を中心にした速習法です。

覚えた単語の確認は、iPadとの勝負。意味⇄発音の変換をiPadより早く言えればあなたの勝ち。次はスペルの確認。音を頼りにスペルを綴る。こうして、スピード感をもって、快調に楽しく単語を学習します。

## 101英単語速習法の特徴



- 中学～大学受験の全3500単語を網羅
- 通じる発音が身につく
- 語源や文法のウラにある訳も学習

頭のなかでは、ことばは、音を手掛かりに記憶から検索されています。単語の音読を繰り返して、英単語の音⇒意味の結びつきを刷り込みます。

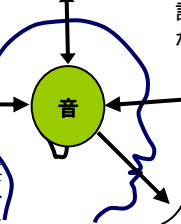
kæ't



意味

アルファベットは表音文字。単語の表記規則(フォニクス)が身につく、音からスペルが書けるようになります。

スペル cat



音

発音

ケ<sup>エ</sup>アツトゥ

発音記号は、正確な発音のためには重要な武器です。しかし、最初から発音記号を使うのは、さらにもう一つの言葉を覚えるようなもので大変です。この速習法では、まずカタカナで音を覚え、自然に発音記号にも慣れるように進めていきます。

英語には日本語にはない音があります。工夫したカタカナ表記で、カタカナを読むだけで通じる発音が覚えられます。



①復唱

②競争

③スペル

iPadの画面

探究館は、この速習法を小学生～高校生の英語学習で実践しています。

©TanQkan 2018

## 「エア」[æ]は“a”と書く

日本人にとって“l”と“r”の聞き分けが難しいのはよく知られた話です。しかし、それよりも大事なのが、「ア」の「聞き分け」です。

英語では、日本語で「ア」に聞こえる音が、5つの異なる音(発音記号で書けば[æ, ʌ, ɑ, a, e])として区別されています。一方、これらの「ア」に対応するアルファベットとしては“a”、“o”、“u”の3つの文字が使われています。ですから、英語では、ローマのように単純に“a”は「ア」と読むことはできず、「ア」は“a”と書けばよい、というにはいきません。

この「聞き分け」の訓練方法として有効なのが、意識して「言い分け」することです。「言い分け」を意識することで、その音に関する感覚が上がり、「聞き分け」られるようになります。その結果、正しい音がインプットされ、自分が出す音を修正できるようになるので、発音と聞き取りがラセン状に上達していくのです。

これら5つの「ア」の中で、最初に取り上げるのは、発音記号[æ]で表される音です。口の形を「エ」にして「ア」という発音なので、「[ア]というフリガナを付けています。この音は、日本語には無い音ですが、注意すれば聞き分けられる特徴的な音で、「言い分け」(発音)も「こつ」をつかめば容易にできるとつきやすい音なのです。そして、なにより重要なのは、この音に当たる文字は例外なく“a”です。ですから、この音が「聞き分け」られると、迷うことなく“a”と書けば必ず正解になるというメリットがあるのです。

それでは、練習を始めましょう。やりかたの手順は裏表紙の「学習の進め方」に書いた通りですが、最初の練習であるこのページでは、特にそれぞれの単語の「エア」を意識してちゃんと発音するように注意してください。「リンゴ」は「アップル」ではなく「エアプル」、「動物」は「アニマル」ではなく「エアニマル」です。右のページにも書いたように、日本語化している単語は、ちょっと気を抜くと慣れ親しんだ「カタカナ英語」が出てしまうので、この段階でしっかりと頭に刷り込んでください。それができたら、繰り返し音読することで「音⇒意味」のつながりを頭に叩き込みます。

なお、「動物」の本当の発音は「エアナムウ」のような音なのですが、「エアニ\*マル」とフリガナを振ってあります。この「ニ\*」と「マ\*」の星印は、ローマ字で書くと“ni”と“ma”となる母音の部分を弱めに言うことで、「音⇒スペル」の学習を助けつつ、通じる発音にするための折衷案です。母音の弱音化は、英語の発音になれてくると自然にできるようになるので、今の段階ではあまり気にせず進めて構いません。

### スペルの鉄則

「エア」⇒ “a”  
100%

①

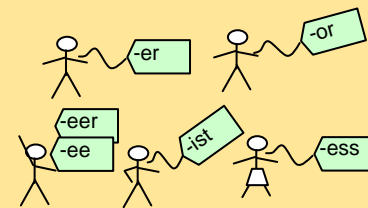
番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
1	cat	猫
	ケ <sup>エ</sup> アット	kæʔ
2	catch	つかまえる
	ケ <sup>エ</sup> アチ	kæʔtʃ
3	hat	帽子
	ヘ <sup>エ</sup> アトゥ	hæʔt
4	hand	手
	ヘ <sup>エ</sup> アンドウ	hænd
5	salad	サラダ
	サ <sup>エ</sup> アラドク	sæləd
6	land	土地
	ラ <sup>エ</sup> アンドウ	lænd
7	plastic	ビニールの
	ブラ <sup>エ</sup> アスティック	plæstik
8	plan	計画、計画する
	ブレ <sup>エ</sup> アン	plæn
9	man	男、人間
	メ <sup>エ</sup> アン	mæn
10	stand	立つ
	スタ <sup>エ</sup> アンドウ	stænd
11	answer	答え、答える
	エ <sup>エ</sup> アンサー	ænsər
12	animal	動物
	エ <sup>エ</sup> ニ*マ*ル	ænəml ◆al
13	ask	尋ねる
	エ <sup>エ</sup> アスク	æsk
14	apple	リンゴ
	エ <sup>エ</sup> アブル	æpl ◆le
15	map	地図
	メ <sup>エ</sup> アプ	mæp
16	bag	カバン、袋
	ベ <sup>エ</sup> アツグ	bæg
17	back	背、後部、後ろへ
	ベ <sup>エ</sup> アック	bæk
18	black	黒い
	ブラ <sup>エ</sup> アック	blæk
19	banana	バナナ
	バネ <sup>エ</sup> アナ	bənæne
20	happy	幸福な
	ヘ <sup>エ</sup> アピ	hæpi
21	class	クラス、授業
	クラ <sup>エ</sup> アス	klæs
22	magic	魔法
	メ <sup>エ</sup> アジック	mædʒik
23	piano	ピアノ
	ピ <sup>エ</sup> アノウ ◆no	piænou ◆no
24	taxi	タクシー
	テ <sup>エ</sup> アクシ	tæksi
25	travel	旅行する、旅行
	トラ <sup>エ</sup> アヴル	trævl

## 人を表す語尾“er”と“or”

「～をする」という動詞を「～をする人」という意味にするには、“teacher”のように動詞の後ろに“er”をつけるのが一般的です。ところが、数は少ないのですが、同じ「アー」という発音なのに、“doctor”や“actor”のように“or”を加える単語があります。そこで“er”で終わる単語には、発音の都合から“er”ではなく“or”を付けるのかなと思えば“neighbor”や“character”といった反例もあり、個別に覚えるしかないようです。ネイティブにその区別を聞いてみると、“-ter”は「ター」と発音するのにに対して、“-tor”は「トオー」のように「オ」の要素が入って心持ち柔らかな発音になるようです。単語を覚える段階で、柔らかめの発音に注意を払って覚えてしまうと一石二鳥ですね。

この、人を表す語尾“-er”は、行為者だけでなく“computer”(“compute”「計算する」+“er”＝計算機)のように「～する物」という意味にも展開していますが、“or”側にも“elevator”(“elevate”「高く上げる」+“or”＝エレベータ)のように同様の展開例もあるで要注意です。

似たようなことが、「より～だ」という比較級にもあります。比較級を作るのは“smaller”のように「形容詞の後に“-er”をつけるのが一般的ですが、“major”や“senior”のような“-or”語尾の比較級もいくつかあります。これらは文法上「ラテン比較級」と呼ばれるラテン語由来の言葉でして、ラテン文法の名残で、比較対象を指す“than”の代わりに“to”を使うという変わり者、覚えておくと便利です。



人を表す接尾辞

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
276	doctor	医者; 博士
	ダクト*ア	dɑ ktɑr ◆
277	operator	操作者
	アパレイト*アー	ɑ pəreitə ◆
278	visitor	訪問者
	ヴィジ*ト*ア	vizitə
279	neighbor	隣人
	ネエイバー	neibər
280	mayor	市長; 町長
	メ <sup>エ</sup> ア	meiər
281	robber	泥棒
	クラバア	rɑ bər
282	officer	役人; 警官
	アファイ*サア	ɑ fæsiər
283	manager	支配人
	メ <sup>エ</sup> アニジャ	mænidʒər ◆
284	stranger	見知らぬ人
	ストウ*クレインジャー	streɪndʒər
285	character	性格、登場人物
	ケ <sup>エ</sup> ア*クラクター	kæriktər ▼
286	member	一員
	メムバー	mɛmbər
287	teacher	先生
	ティ*チャー	ti:tʃər
288	customer	お客様
	カスタマ	kAstəmər
289	writer	作家
	ウライター	raɪtər
290	waiter	接客係
	ウエイター	weɪtər ◆
291	bakery	パン屋
	ペエイカ*リ	bɛikəri ◆
292	volunteer	ボランティア、志願する
	バランティア ◆(人を表す(ee)は常に強勢)	voləntiər ◆
293	engineer	技術者
	エンジ*ニア	ɛn(d)ʒɪniə ▼
294	tourist	旅行者
	トゥア*クリストウ	tʉrist ◆
295	scientist	科学者
	サイ*エンティ*ストウ	saɪəntɪst ▼
296	dentist	歯医者
	デンティ*ストウ	dɛntɪst
297	gentleman	紳士
	ジ*エントルマン	dʒɛntlɪmən
298	human	人の、人間
	ヒューマン	hju:mən
299	woman	女性
	ウ*マン	wʉmən
300	princess	王女
	プ*リンセス	prɪnsəs (→-ess: 女性)

②

## 接尾辞・接頭辞

漢字は偏(へん)と旁(つくり)で構成され、例えば松や杉の木へんが木に関するものを表します。英単語の中にも、語頭や語尾に特定の文字列を追加することで元の単語に意味を付加する働きをもつ、接頭辞や接尾辞と呼ばれる「パーツ」があります。

ここでは、それらの例をいくつか示します。

まず、その代表格が、「～をする」という動詞を「～をすること(もの)」という名詞に変える名詞化の接尾辞“tion”です。例えば、informationは、inform「知らせる」という動詞に“-tion”を加えて、「知らせるもの=情報」という意味になります。このとき、アクセントの場所も「インフォーム」から「インフォ\*メイション」へと動きます。このように、“tion”が語尾につくと、その直前の母音に必ずアクセントが来るという特徴もあるので覚えておきましょう。なお、“tion”と結びつく際に、発音やスペルの都合で動詞の語尾に(inform + a + tion)のような若干の変化があります。また、動詞が“s”で終わる場合は“-tion”が“-sion”に代わったりします。

次の例は、名詞に「いっぱいある」という意味を加えて形容詞にする“ful”という接尾辞。「満ちている」という意味の形容詞 “full”から来ています。“al”は名詞を「～な」という形容詞にします。

次は語頭につける接頭辞。形容詞を「～でない」という逆の意味にする“un-”や、取り除かれたことを意味する“dis-”がその代表例。“discover”は“cover”(覆い)を取り除くので(発見する)という意味になり、さらに名詞化の接尾辞“-ry”を付けると“discovery”(発見)という名詞になります。“disease”は“ease”(安楽)でなくなるので(苦しみ=病気)という意味。

この他“re-”(再び)や“com-”(共に)など、様々な接頭辞・接尾辞がありますが、そのリストを一気に覚えるのではなく、個別の単語を覚えていくときに共通点がないかと注意して発見しながら学習していく方が、楽しくて有効な学習法です。例えば、中学1年で習う“station”(駅)という単語は、“stay”(留まる)という動詞の名詞化つまり、停留所だと再発見するなんて、面白くありませんか？

### 接頭辞と漢字の対応

下のリストは、主要な接頭辞と、その意味に対応する漢字を整理したものです。こうすると、英単語がちょうど漢字の熟語のように理解することができます。例えば:

import = in(中) + port(運ぶ) = 輸入  
export = ex(外) + port(運ぶ) = 輸出

in(中) (中、不) ex(外)  
con(共) dis(離)  
pro(前:位置) pre(前:時間)  
re(再、戻) per(完)  
ad(向) ob(向、逆)  
sub(下) de(下、強、離)  
inter(間) trans(移)

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
251	information インファメイション	情報 infərméiʃən
252	communication カミュニケーション	伝達 kəmjú:nikéiʃən ◆
253	competition カンペティション	競争、コンペ kəmpətiʃən
254	vacation ヴェイケーション	休暇 veikéiʃən ◆
255	examination イグザミアミ*ネイション	試験 igzáməniʃən
256	invitation インヴィテーション	招待 invitéiʃən
257	invention インヴェンション	発明、発明品 invénʃən
258	question クエスション	質問 kwéstʃən
259	station ステーション	駅 stéiʃən
260	action エアクション	行動 ækʃən ◆
261	animation アニメーション	アニメーション əniméiʃən ◆
262	discussion ディスカッション	討議 diskʌʃən
263	expression イクスプレッション	表現、表情 ikspréʃən
264	mansion メアンション	大邸宅 mænʃən ◆ (-sion)
265	careful ケアフル	注意深い kéəfəl
266	beautiful ビューティ*フル	美しい bjú:təfəl
267	useful ユースフル	役に立つ jú:sfəl
268	natural ネアチュ*ウラル	自然な néitʃərəl ◆
269	international インターネーションアル	国際的な intərnəiʃənl ◆
270	musical ミュージカル	ミュージカル mjú:zikəl ◆
271	unusual アニュジュアル	普通でない ʌnju:ʒuəl
272	unhappy アンヘイピ	不幸な ʌnhæpi
273	discover ディスカヴァ	発見する diskávər
274	discovery ディスカヴァリ	発見 diskávəri
275	disease ディーズ	病気 di:zi:z

## “a”は「オ」と読む！

ローマ字では、“a”は「ア」と読むと教わります。一方、英語では、“a”という文字は単独では、「エア」や「エイ」と読むのが普通ですが、このページで見るように“l,r,w,u”などの子音字を伴って「オー」と読むことが多いのです。“au”も「オウ」ではなく“Australia”(オーストラリア)のよう「オー」と読むことに注意してください。

一方、“o”はローマ字では「オ」ですが、次のページで見るように「ア」と読むことが多いのです。ローマ字の知識は捨てて、英語では“a”は「オ」、「o”は「ア」と読むのが基本と思ってください。

でも、“natural”のように、語尾の“al”を「アル」とよむじゃないか、って思いますよね。確かに、“a”や“o”の読み方は、表音文字のアルファベットのくせに複雑ですね。

それでは、次の日本語を読んでください。フリガナと、読みをローマ字で添えておきます。

- ◆原文 : 王様は 大通りへ 行かれる
- ◆フリガナ : オウサマハ オオドリヘ ユカレル
- ◆読み : ohsama wa oodoori e ikareru

例えば「ハ」というフリガナは表記通りの“ha”ではなく“wa”と読んでいますね。ここからもわかるように、フリガナでさえ発音に完全に忠実ではありません。所詮ことばというものは、この程度の「ゆれ」はあるものだ覚悟してお付き合いください。

## カタカナ英語を克服せよ！

英単語を学習するときの大敵は日本語の中に入り込んでしまっている「カタカナ英語」、それも特にアクセントです。音の方は少々発音が悪くてもなんとか通じるものですが、アクセントが違くと、いくら発音が良くても、英語としてなかなか認識してもらえません。そして、体に染み込んでしまったアクセントを修正するのは、容易なことではないのです。

例えば“banana”(バナナ)は、「カタカナ英語」では、最初の「バ」がやや強めになるので「バナナ」と発音されます。しかし、英語では「バナーナ」と真ん中の「ナ」にアクセントが来ます。このドリルでは、アクセント位置をわかりやすくするため、大きな太字のフォントで、赤文字で示していますが、そこまでしても、無意識のうちに慣れ親しんだ「カタカナ英語」のアクセントで読んでしまうものです。

ですから、新しい単語を覚えるときは、最初の段階で、意味と同時に正しいアクセントに慣れるようにしてください。カタカナ英語との関係で間違えやすい単語には▼(アクセント注意)◆(発音も注意)のマークをつけてあります。探究館では、新しい単語のリストがスラスラ読めるようになった段階での自分の声を録音し、アクセントを確認して、間違えて覚えこむ前に訂正をかけるようにしています。

26	ball ボール	球 bɔ:l
27	talk トーク	話す tɔ:k
28	walk ウォーク	歩く、散歩 wɔ:k
29	almost オールモスト	ほとんど ɔ:lmo:st
30	always オールウエイズ	常に ɔ:lweiz
31	also オールソウ	もまた ɔ:lso:u
32	salt ソールト	塩 sɔ:lt
33	small スモール	小さい smɔ:l
34	call コール	呼ぶ、電話をかける kɔ:l
35	wall ウォール	壁 wɔ:l
36	tall トール	背が高い tɔ:l
37	hall ホール	大広間 hɔ:l
38	fall フォール	秋、落ちる fɔ:l
39	war ウォー	戦争 wɔ:r
40	warm ウォーム	暖かい wɔ:rm ◆(ワーム: worm 虫)
41	toward トゥワード	…の方へ tɔ:rd
42	draw ドゥウロウ	描く; 引く drɔ:
43	sauce ソース	ソース sɔ:s ◆
44	because ビコース	…なので bi:kɔ:z
45	astronaut イアストロウ*ノウト	宇宙飛行士 əstrɔ:nɔ:t
46	Australia オーストラウ*レイリア	オーストラリア ɔ:(s)tréiʃə
47	auto オートウ	自動車 ɔ:tu
48	restaurant レストラン	レストラン ◆ réstərənt ◆
49	dinosaur ダイナソー	恐竜 dáinasɔ:r
50	strawberry ストロウ*ベリー	イチゴ strɔ:beri

## “o”は「ア」と読む

今度は“o”の読み方です。前ページで紹介したように、“o”は「ア」と読みます。ここに掲げた単語は、ポピュラー、ストップのように、すでに日本語化しているものが多く、そのカタカナ表記のほとんどで“o”は「オ」になっています。でも、“college”は「コレッジ」ではなく、「オーマイゴッド」とも言わない、という点を抑えておけば、“o”を「ア」と読むことも自然と納得できそうですね。

それでは、このページの単語のスペルを、音だけを頼りに書いてみましょう。「ア」は“o”, 「オ」は“a”, そして「エア」は必ず“a”という原則と、ローマ字で習った子音字 (“aiueo”以外のアルファベット)に関する基本的な知識を使うだけでこのリストの7割は正しいスペルを書くことができます。さらに“ff”, “ll”, “tt”, “rr”といった子音字のダブリを修正すれば、ほとんど正しく書けるはずです。音を覚えれば、意味もスペルも同時に学べる！強力なこの方式の効果はどの程度のものか、さあ、試しにやってみましょう。

## 音節(シラブル)について

“ff”, “tt”などの子音字のダブリが出たついでに、音節について少し触れておきましょう。英単語のスペルを覚えるのにも役立つ知識なので、「そんなものか」程度に理解しておいて下さい。

英単語は、1つの母音を中心とした塊(音節)が、ひとまとまりの音として発音されます。文字としては、母音字の前後に子音字がくっついて1つの音節を書き表しています。ですから母音(字)が1つの単語は、当然1音節です。母音が複数ある場合、例えば “popular” は “po・pu・lar” と3音節に分かれます。音節分解の原則は、母音を中心に、そのまず前にある子音字を自分のグループ(音節)に取り込み、次に直後の子音字まで範囲を広げます。

ところで、ローマ字で小さな「っ」(促音)を表すのに子音字を重ねて“tt”のように書きますが、実は英語でも同じようなことが起きているのです。例えば、“office”という単語は“of・fice”のように2つの音節に分解され、「オフ」と「フィス」に分けて発音されます。このとき、“of”では唇を軽くかんで“f”を出す準備だけをし、次に“fis”で改めて“f”が発音するので、促音ではありませんが、2つの“f”の間に短い「間」が生まれます。あくまでも「オフィス」ではなく「オ(フ)・フィス」、「letter」は「レッター」ではなく「レ(タ)ター」です。

このように、“tt”や“ll”など子音字が続く場合、そこで音節が分かれることとなりますので、2つの文字に間に小さな「間」をとり、後半の子音を改めて言い直すように覚えておけば、子音字がダブリしている事も音だけからわかるのです。

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
51	popular パピュラー	人気がある pa'pjələr
52	stop ストップ	やめる、止まる stɒp
53	hot ハットウ	熱い hɒt
54	top タップ	頂上 tɒp
55	box ボックス	箱 bɒks
56	spot スポットウ	点、地点 spɒt
57	body ボディ	体 bɒdi
58	office オフィース	事務所 'ɒfɪs
59	novel ナヴェル	小説、新規な:目新しい nɒvl
60	follow フォローウ	従う fɒləu
61	shop シャップ	店 ʃɒp
62	bottle バトウル	瓶 bɒtl
63	bottom バタム	底 bɒtəm
64	doll ダール	人形 dɒl
65	pocket ポケットウ	ポケット pɒkət
66	frog フラグ	カエル frɒg
67	fox ファックス	キツネ fɒks
68	job ジァブ	仕事 dʒɒb
69	comic コミック	漫画、滑稽な kɒmɪk
70	holiday ハリ*デエイ	休日 hə'lɒdeɪ
71	hospital ハスピタル	病院 hɒspɪtl
72	sorry サウリ	申し訳なく思っ sə'ri
73	god ガッドウ	神 gɒd
74	college カレ*レッジ	単科大学 kɒlɪdʒ
75	dollar ダラー	ドル dɒlər

## 前置詞

前置詞は、動詞とその目的語である名詞をつなぐことばですが、使われる状況によって様々な意味を持ちます。これら前置詞の多くは、まず、空間的な関係を示す言葉として生まれ、後に、多彩な意味に展開してきました。例えば“for”の場合、「向かう方向」から、⇒目的⇒代わりといった具合で展開しています。したがって、前置詞を理解するには、まず基本的な空間的意味を知る必要があります。しかし、右の表の「意味」は、暗唱する目的で短い言葉にしてあるので、その意味合いを十分に表現できません。これを補うために、以下に主要な前置詞が示す空間的関係のイメージを示します。

### at, in, on

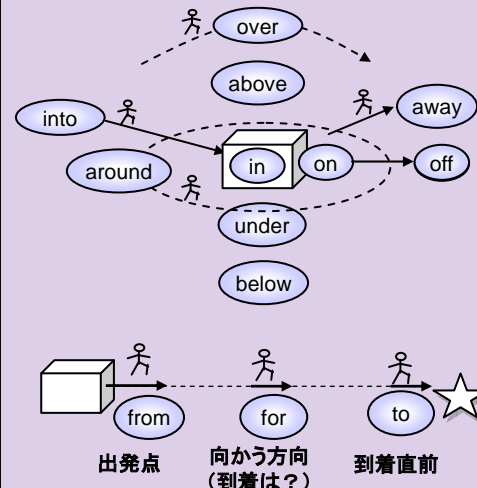
#### <空間的イメージ>

at: 限定された場所、地点  
arrive at Tokyo (ロンドンから見れば東京は地点)  
in: 3次元的に囲まれ、包み込まれている。  
sit in the sofa (ソファに納まって)  
on: 表面への接触 put on the wall (壁に貼る)  
on the street (その沿道に)

#### <時間的な広がりへの展開>

at: 分、秒程度の短い時間  
at 3 o'clockは3時(前後数分間)  
in: 年、月、週、午前、時間 (in an hour)  
対象の行為がその期間中に完了する期間  
on: 日(慣用的: カレンダー上の日付のイメージか?)

## 前置詞の空間的イメージ



番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
226	from フラム	…から frɒm   frʌm
227	to トゥー	…へ tu:
228	for フォー	…へ向けて;…のために fɔ:   fɔːr
229	at エアトウ	…で ət   æt
230	in イン	…の中で ɪn
231	on オン	…の上で;に接して ɒn
232	off オフ	…から離れて ɔf
233	of オフ	…の ɔf
234	into イントウ	…の中へ ɪntə   ɪntu
235	near ニア	…の近くに nɪər
236	by バイ	…の横に;によって;まで baɪ
237	about アバウトウ	…について;およそ əbaʊt
238	around アウラウンドウ	…の周りに əraʊnd
239	away アウエイ	離れて əweɪ
240	over オウヴァー	…の上に;を越えて oʊvər
241	under アンダー	…の下に ʌndər
242	above アバヴ	…の上方に əbʌv
243	below ビロウ	…の下方に biˈləʊ
244	before ビフォーア	…の前に;…する前に bɪfɔːr
245	after エアフター	…の後に;…した後で æftər
246	behind ビハインドウ	…の後ろに bihaɪnd
247	across アクラス	…を横切って əkrɒs
248	along アロング	…に沿って əlɒŋ
249	with ウイドウ	…と一緒に wɪð
250	without ウイドゥアウト	…なしで wɪðaʊt

## 指示語、疑問詞

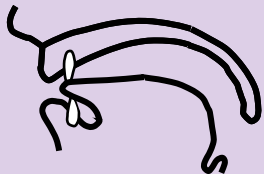
“th”は日本語に無い音で、発音に苦労する音ですが、発音機構は日本語のダ行に似ています。試しに「ダディ デュデド」と言ってみてください。声を出す前に、まず舌先が上前歯の裏側に当たりますね。“th”を発音するは、舌先をさらに心持伸ばし、上下の前歯の間から舌先が見える程度に割り込ませます。そして、声を出すと同時に、舌先を勢いよく引き戻すとき、舌と前歯の間を通る息が起こす摩擦音が“th”の音なのです。ここでは、ダに似ているが違う音だという意味で、下線・斜体の「ダ」というフリガナをつけています。

一方、“wh”も発音しにくい音です。例えば“what”は、「ホ」を言う口のように唇を丸くどがらせてから、軽く「ウ」と言うようにそれらしく聞こえます。

ところで、右の“what”、“where”などの“wh”で始まる言葉は疑問詞と呼ばれていますが、何、どこ、という疑問を発しているのではなく、それ自体は「whギャップ」と呼ばれる情報の欠落を意味しているのです。一方、“th”で始まる言葉は、下の表のように整理すると、対象を具体的に指定する指示語の働きをしています。

“What do you like?”という問いは、は“Do you like xx?”と聞きたいけれど、xxに当たる対象が特定できないときに、「対象物が不明ですが」という意味の前置きである“what”をき、「教えてください」という質問自体は後半の“do you like?”が発しているのです。

つまり、“what”には「何?」という質問の機能があるのではなく、あるのは「対象物は不詳」という意味だけです。このようなイメージで理解しておく、関係代名詞の“what”も同じ発想から出ていることがわかんと思います。



“Th”の舌の位置

此(こ\*) 彼(あ\*) 何(ど\*)  
(-) (th-) (wh-)

所 時 物	here (now) (this)	there then that	where when what
-------------	-------------------------	-----------------------	-----------------------

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
201	here ヒアー	ここに híər
202	there デェアー	そこに ðéər
203	where ウエアー	どこに wɛər
204	this ディス	これ ðɪs
205	that ダットウ	それ ðæt
206	what ウワットウ	何 hwɒt
207	why ウワイ	なぜ 《副》hwái 《間》wái 《名》hwái
208	then デエン	そのとき、それから ðén
209	when ウエン	いつ hwén
210	which ホウイチ	どちら、どれ hwɪtʃ
211	who ホウ	誰が hú:
212	whose ホウズ	誰の hú:z
213	how ハウ	どうやって; どのくらい hau
214	do ドゥー	する du:
215	be ビー	である、居る bi:
216	have ヘアヴ	持っている; 経験がある həv   hæv
217	able エイブル	できる éɪbl
218	can ケアン	缶; …できる kæn
219	may メイ	してもよい; かもしれない méi (確率50%)
220	must マストウ	…しなければならない mʌst 違い(199%)
221	will ウイール	…だろう、意思 wel   wíl
222	shall シャル	…しましょう 《強》ʃəl 《弱》ʃəl
223	would ウドウ	…でしょう、…つもりだ wud
224	should シュドウ	…すべきだ 《強》ʃʊd 《弱》ʃəd
225	maybe メイビー	多分 méɪbí(:)

## “u”も「ア」と読む

“a”と“o”が終わったところで、今度は“u”です。“u”も主に「ア」と読まれます。ここにリストした単語の内、かなりの数の単語がおなじみの「カタカナ英語」になっていますが、「ボタン」以外では“u”はちゃんと「ア」になっています。ただし、英語では“u”の「ア」は“o”の「ア」より大きく深い「ア」です。正しい発音方法の具体的なコツは別途練習していきますが、今の段階では、普通の「ア」と少し違う音だという点だけを意識して単語を覚えていってください。

## 三単現になぜ“s”がつくの

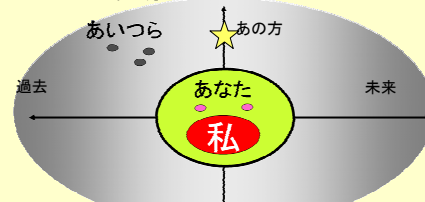
ここで、英文法の背景にある「わけ」について考えてみましょう。例えば、名詞の複数形には“s”がつく、そして動詞は3人称の単数のときに“s”がつくと習います。では、なぜそうなるのか、疑問に思った事はありませんか? こういう「疑問」を持つことが学習の第1歩。この関心を突き詰め、納得してから覚えるのが探究流です。

手短かに言えば、答えは「強調」です。イギリスは寒い国で、大きな声で強調するには口を大きく開けなければならぬので冷えます。そこで、口をすぼめた鋭い「ス」という音で強調しているのです。

確かに、複数形の“s”は、たった一つではないことを強調するためのものであることは理解できます。では、なぜ、三人称は単数であることを強調する必要があるのでしょうか?

答えは、お互い知っている「あの方」であることを強調するためです。英語で大事なものは、下の図のように「今、ここ、私達」です。過去や未来はぼんやりしていて、他人は個性を持たない「あいつら」です。そんな中、三単現は「あの方」に焦点を絞りスポットライトを当てるために使われます。このスポットライト効果は、英語という言語の奥底にある特有の感覚です。日本語を話すときには、相手や話題にしている第三者に対する目上・目下の関係が、使われる敬語に自然と反映されるように、英語では話題の対象にスポットライトを当てるという意識が、動詞に“s”を自動的に付けさせるのです。ネイティブは、決して文法を意識して“s”をつけているわけではなく、あるべき所に“s”がないと話題のピントが定まらず「なんとなく気持ち悪い」という感覚なのです。

## 英語は自己中



関心事は「今、ここ、私(達)」  
そして、「あの方」も

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
76	umbrella アムブレラ	傘 Ambréle
77	uncle アングル	おじ ʌŋkl
78	run ウラン	走る rʌn
79	such サッチ	そのような 《弱》sətʃ 《強》sʌtʃ
80	lucky ラッキー	幸運な lʌki
81	rush ウラッシュ	突進する、急ぎ、突進 rʌʃ
82	rubber ウラバー	ゴム rʌbər
83	number ナムバー	数字、かず nʌmbər
84	cup カップ	カップ kʌp (コップはglass)
85	cut カット	切る kʌt
86	hug ハグ	抱きしめる hʌg
87	culture カルチャ	文化 kʌltʃər
88	dust ダストウ	ほこり dʌst
89	just ジャストウ	たった今、ちょうど、ただ dʒʌst
90	jump ジャンプ	跳ぶ dʒʌmp
91	drum ドゥラム	太鼓 drʌm
92	truck トゥック	トラック(貨物自動車) trʌk
93	brush ブラッシュ	ブラシ brʌʃ
94	trumpet トゥックラムベットウ	トランペット trʌmpet
95	club クラブ	クラブ klʌb
96	duck ダック	アヒル dʌk
97	fun ファン	楽しみ fʌn (扇、ファンはfan)
98	funny ファニー	おかしな fʌni
99	puppy パピー	子犬 pʌpi
100	button ボタン	ボタン bʌtn ◆(バトンはbaton)

## 「ア、ウ、オ」と「イ、エ」

日本語の母音は「アイウエオ」の5つだけです。英語ではさらに多彩な母音がありますが、これらの母音は“a,i,u,e,o”の5つのアルファベットを使って表されるので、この5文字を母音字と呼びます。この内“a,u,o”はすでに見たので、ここでは残りの“i”と“e”を取り上げます。“i”の読み方は「イ」、”e”は「エ」とローマ字と同じ読み方です。

子音字の場合、読み方はほとんど一通りです。しかし、“c”や“g”といった一部の子音字には二通りの読み方があります。例えば“c”という文字の読み方は、“city”「シティ」、”center”「センター」などサ行(発音記号[s])の音と、“cat”「ケアット」、”cut”「カット」のようなカ行(発音記号[k])の二通りがありますが、それはなぜなのでしょう？

これら二通りの発音をよく見ると、「ア、ウ、オ」という口腔内を大きく開ける「大母音」の前ではカ行、「エ、イ」の口先だけで発音する、「口先母音」の前ではサ行になっています。これは、スペルの読み方の規則をまとめたフォニックスという体系中の「発音規則」の一つですが、現象論に過ぎません。個々に現象を覚えるのではなく、その理由まで探り、納得して理解するのが「探究流」。実際に発音してみましょう。

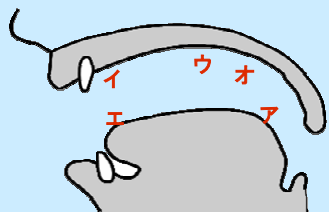
”cat”のときの“c”は、口の奥の方を広げる破裂音[k]を出しますが、“city”の“c”は前歯の下を空気を通る時の摩擦音[s]になります。つまり、口の奥で出す[k]は大母音と結びつき、口先で出す[s]は口先母音と結びつく。自然な流れですね。

では、[k]の音に続いて「イ」や「エ」の「口先母音」を言いたいときはどうするのでしょうか？ そのときは、下の表に示すように“c”ではなく“k”を使って、king「キング」やkettle「ケトル」のように書きます。また、[s]の音に続いて大母音を出すときは“salad”や“song”のように“c”ではなく“s”の文字が使われているのです。

納得できましたか？ それでは、“g”について、同じようにまとめてみてください。

### 後続母音と使用文字の選択

後続の母音字	大母音 (a,o,u)	口先母音 (i,e)
発音 [k]	“c”	“k”
発音 [s]	“s”	“c”



⑤ 母音の調音点

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
101	drink ドウクリンク	飲む、飲み物 drɪŋk
102	bring ブリング	持ってくる brɪŋ
103	visit ヴィズィトク	訪れる vɪzɪt
104	river リヴァー	川 rɪvər
105	fish フィッシュ	魚 fɪʃ (単複同形)
106	big ビッグ	大きい bɪg
107	swim スウイム	泳ぐ swɪm
108	simple ズィンプル	簡単な sɪmpl
109	sing ズィング	歌う sɪŋ
110	trip トリップ	旅行 trɪp
111	picture ピクチャー	絵画、写真 pɪk(t)ʃər
112	give ギヴ	与える gɪv
113	get ゲットク	得る; ...になる ɡet
114	left レフトク	左の lɛft (leaveの過去形も同じ)
115	help ヘルプ	助ける hɛlp
116	tell テル	告げる tɛl
117	sell セル	売る sɛl
118	send センドク	送る sɛnd
119	success サクセス	成功 sɛksɛs ▼
120	very ヴェリ	非常に vɛri
121	desk デスク	机 dɛsk
122	next ネクストク	次の nɛkst
123	pen ペン	ペン pɛn
124	pencil ペンスル	鉛筆 pɛnsɪl
125	bell ベル	鐘 bɛl

## “glass”(ガラス)と“grass”(草)

“glass”と“grass”、この2つはフリガナを振ればどちらも「グラス」で、日本人には同じ音に聞こえます。でも、ちょうど日本語で「オ」と「ラ」を区別するように、英語では“l”と“r”は全く違う音として区別されているのです。赤ちゃんは、はじめは様々な音を聞き分けられませんが、この能力は、生後10か月を境に急速に失われると言われていて、様々な音の中から「ことば」を拾い出して理解するためには、違う音でも区別せずに同じ音だと認識する、「聞き分けない」能力が要求されるのです。日本語では“l”と“r”が同じ音だとして訓練されてきたわけですから、“l”と“r”を別の音として「聞き分け」るのは大変なことなのです。

ですから、“l”と“r”を聞き分けることは、そう簡単にはできませんので、まず、「EAI」の音でやったように「言い分け」の訓練から始めます。幸い、“l”の音は日本語のラ行に似た音で、日本語の「ラ」と同じように、上前歯の裏側に舌先を当てて出すので、簡単です。一方、“r”は口の中のことにも舌が触れないことを特徴とする音です。このドリルでは“r”に「ウラ」「ウリ」「ウル」「ウレ」「ウロ」というフリガナをつけていますが、この「ウ」というのは、口を「ウ」の形に準備し舌を浮かしておくという意味です。こういう準備をしてから「ラ」と言うと、舌先が口の中の触れる暇がないまま音が出るので、“r”っぽい音になります。

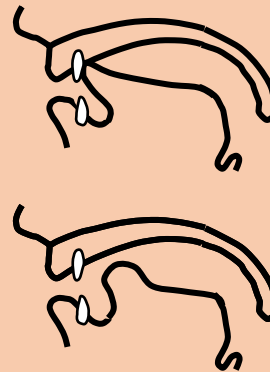
右のリストには、“l”と“r”が交互に出てきますので、意識して言い分けてください。「ウ」に注意して、“r”を「言い分ける」努力をすることで、単語中の“l”と“r”の違いに敏感になり、“r”のときに聞こえるべき音のイメージが頭の中に作られていきます。このようにして、“r”の前に、軽い「ウ」という音が聞こえて来たらしめたもの、聞き分けの準備ができたこととなります。



glass



grass



【l】と【r】の舌の位置

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
176	glass グラエス	コップ、ガラス glɑ:s ◆ (カップはcup)
177	grass グウエス	芝生 grɑ:s
178	cloud クラウド	雲 klaʊd
179	crowd ククラウド	群衆; 群がる kraʊd
180	crow ククロウ	カラス kraʊ
181	strong ストロング	強い strɒŋ
182	belong ビロング	属する bɪlɒŋ
183	wrong ウロング	間違った rɒŋ
184	long ロング	長い lɒŋ
185	round ラウンド	丸い、ぐるりと raʊnd
186	loud ラウド	やかましい laʊd
187	rock ウラック	岩; 揺らす rɒk ◆
188	clock クラック	時計 klɒk
189	rose ウローズ	バラ rəʊz   rouzei
190	lose ルーズ	失う lu:z
191	road ウロード	道路 rəʊd ◆
192	railroad ウレイルウアウト	鉄道 reɪlraʊd
193	light ライト	光; 明るい; 軽い laɪt
194	right ウライト	右の; 正しい raɪt
195	lady レイディ	女性、婦人 leɪdi ◆
196	ready ウレディ	準備ができている reɪdi
197	lead リード	導く li:d
198	read ウリード	読む ri:d
199	line ライン	列、回線 laɪn
200	shrine シュウライン	神社 ʃraɪn

## "ee"と"ea"

「イー」の音に対して「ee」と書く方が一般的ですが「ea」と書く単語も決して少なくありません。どちらの書き方を使うかは、音からだけでは判断できないので、スペルを個別に覚えるしかありません。でも、ここでのお勧めは、「ee」は最後まで硬く「イー」と言うのに対して、「ea」は最後に唇を少し緩めて柔らかくというように「言い分け」て学習する方法です。

実際ネイティブに聞いてみると、「ea」の場合、「ee」に比べて「a」の文字に引きずられて少し柔らかい発音になっているようです。このように、始めから「言い分け」方を覚えてしまえばスペルは音通りに書けばよくしかもちゃんと通じる発音になるので、一挙両得です。

## -ing形のイメージ

中学の英文法では、まずbe動詞+動詞の-ing形で「～しているところですよ」という意味の「進行形」を習います。その後も、動詞のing形はいくつかの場所で登場するのですが、動詞につけたingは、いったいどういう働きをしているのか考えてみましょう。

この話をする前に、動詞の「現在形」の意味について整理しておきます。実は「現在形」というのは、今の瞬間を指しているのではなく「最近では(たいてい)～しています」という意味です。そして、今この瞬間を表すのが-ing形なのです。「He runs.」が「彼は走る」という事実を言っているだけなのです。ところが、「He is running.」は、「彼は走っている」といったような単なる情景描写ではありません。息遣いが聞こえ、飛び散る汗を感じるような生々しさと臨場感を、「running」の表現から感じて下さい。つまり「running」は「ゼイゼイ言いながら走る」という状況(行為)を表していますから、「He is running.」という言い方は「彼は「running」の状態にある」ということを意味します。ここでbe動詞が「She is beautiful.」が「彼女は美しい(状態にある)」と言う意味であるのと同じように、「～の状態にある」を意味しており、be動詞+ing形の組み合わせで、特別な意味が生じているわけではないのです。

動詞の-ing形をこのように理解しておく、動名詞や現在分詞と文法上の名前が違ってても、その根底にあるイメージは同じなのです。文法を頭で「覚える」だけではなく、ネイティブがそうするように「感じる」ことを目指しましょう。



He is running.

番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
151	week ウイーク	週 wi:k
152	weak ウイーク	弱い wi:k
153	meet ミートゥ	会う mi:t
154	meat ミートゥ	肉 mi:t
155	see ズイー	見える si: ◆
156	sea ズイー	海 si: ◆
157	tree トゥリー	木 tri:
158	tea ティー	紅茶 ti:
159	keep キープ	保つ ki:p
160	steal スティー	盗む sti:l ◆(鋼鉄はsteel)
161	deep ディープ	深い di:p
162	meal ミール	食事 mi:l
163	sleep スリープ	眠る、睡眠 sli:p
164	mean ミーン	意味する mi:n
165	sheep シープ	羊 ʃi:p
166	leaf リーフ	木の葉 li:f (複数形 leaves)
167	beef ビーフ	牛肉 bi:f
168	queen クイーン	女王 kwin
169	leave リーヴ	去る; 置いていく li:v
170	screen スクリーン	画面、ついで skri:n
171	free フリー	自由な; 無料の fri:
172	reach リーチ	到達する ri:tʃ
173	feel フィール	感じる fi:l
174	clean クリーン	綺麗にする、綺麗な kli:n
175	bee ビー	蜂 bi:

## 魔法のE

このページはフォニックスのルールの中で、最も有名かつ強力なルールである「魔法のE(Magic-E)」の事例を集めたものです。

魔法のEとは、「単語の語尾が無音の“e”で終わる場合、その前が 母音字+子音字の形をしていたら、その母音字はアルファベット読みになる」というルールです。例えば、cut「カットウ」の“u”は「ア」と読みますが、語尾に“e”をつけるとcute「キュートウ」となります。語尾の“e”を読まない代わりに“u”をアルファベット読みで「ユー」と読むのです。

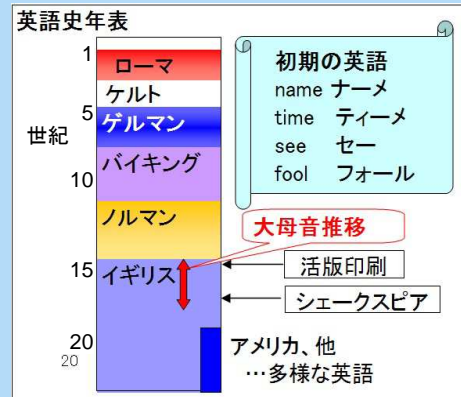
この規則を知っていると、英単語を書くときに、語尾に無音の“e”が付くか付かないかを、その前の母音字の読み方から推測することができます。もちろん、規則には例外はつきものですが、単語を覚える段階でそれが「魔法のE」の対象かどうかを確認して、例外だけをきちんと覚えれば、正確で効率的にスペルを学習できます。

(アルファベット読み)



魔法のE ... + 母音字 + 子音字 + e (黙字)

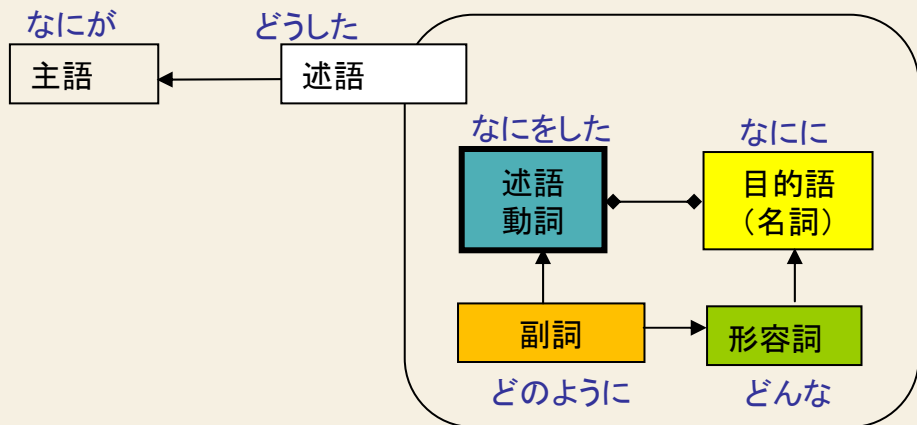
では、なぜ「魔法のE」が存在するのでしょうか？ 探究流のこの疑問を発すれば、すぐにその根底にある「大母音推移」という英語史上最大の大変革が見えてきます。初期の英語では、下に示すようにname(名前)は「ナーメ」、cut(切る)は「クットウ」と、ローマ字読みのように発音されていたといわれています。しかし、14～16世紀にかけて「大母音推移」という現象が起き、全ての母音の調音点が一段高くなりました。このとき、それ以上調音点が高くなれない「ウ」や「イ」は重母音化してアルファベット読みが変わったのです。ですから、「魔法のE」という法則は、「大母音推移の結果」を、現象論として捉えたものというわけなのです。なお、「大母音推移」が起きた理由については、色々な説がありますが定説はないようです。



番号	英単語/カタカナ	意味/発音記号
126	cute キュートウ	かわいらしい kjút (⇒ cut)
127	hope ホープ	望む、希望 hóup (⇒ hop)
128	hole ホウル	穴 hóul
129	home ホーム	家庭、家へ hóum ◆o
130	name ネーム	名前 néim ◆a
131	game ゲーム	試合 géim ◆a
132	cake ケイク	ケーキ kéik ◆a
133	make メイク	作る、～にする méik
134	take テイク	取る、連れて行く téik
135	wake ウエイク	目が覚める wéik
136	lake レイク	湖 léik
137	snake スネイク	ヘビ snéik
138	smoke スモーク	煙、喫煙する smóuk
139	joke ジョーク	冗談 džóuk
140	bake ベイク	焼く béik ◆a
141	safe セーフ	安全な séif ◆a
142	life ライフ	人生; 生命; 生活 láif
143	like ライク	好む láik
144	time タイム	時 táim
145	write ライトウ	書く ráit
146	pollute パリュートウ	汚染する pelú:t
147	wide ワイドウ	広い wáid
148	ride ライドウ	乗る、乗ること ráid
149	fine ファイン	すばらしい fáin
150	stone ストーン	石 stóun

# 英文の構造

詳しい説明



## 主語は土台、主役は動詞



Examples of Japanese sentences with components identified:

- 空は青い (The sky is blue)
- 犬は早く走る (The dog runs quickly)
- このハムはおいしい (This ham is delicious)
- 私は悲しい (I am sad)
- 彼は勉強する (He studies)
- 父は先生だ (My father is a teacher)

★日本語で述語動詞がない文 ⇒ 英文はbe動詞で記述する。  
(~だ。は断定のs助詞)

## 助動詞は動詞の親分

